

2016年3月期 第2四半期連結決算ハイライト

阪和興業株式会社

(単位：億円 億円未満切捨て)

2016年3月期 第2四半期決算の概要

・本年度第2四半期決算は、石油製品価格の下落や鋼材市況の低迷などにより、売上高は前年同期比9%減の7,882億円となりました。一方、親会社株主に帰属する四半期純利益は為替差損の減少や特別利益の発生などにより、前年同期比52%増の60億円となりました。

・中間配当は8円00銭、期末配当見込みも8円00銭とすることから、年間配当は16円を予定しております。

経営成績	当第2四半期 (累計)	前第2四半期 (累計)	前年同期比		主な要因
			増減	増減率	
売上高	7,882	8,611	△729	△9%	(売上高) 原油価格の下落に伴う石油製品価格の低下や原料価格の下落による鋼材市況の低迷などにより、前年同期比9%の減少となった。 (販管費) 前年同期比で5%約9億円の増加。その内、新規連結した子会社影響は約5億円。人件費は約6億円(内、新規連結子会社分約3億円)の増加、貸倒は発生しなかったが、円安により海外子会社の円貨換算での経費が増加した。 (営業外損益) 営業外収益は貸倒実績率の低下による貸倒引当金戻入益などにより、80%の増加。営業外費用は為替差損は減少したものの、持分法適用会社COSMOSTEEL HOLDINGSの株価下落に伴う持分法投資損失が発生したことなどにより、3%の増加となった。 (特別損益) 特別利益は負ののれん発生益、固定資産や投資有価証券の売却益を計上。特別損失は子会社株式などの減損処理によるもの。
売上総利益	274	273	1	0%	
販管費	192	183	9	5%	
営業利益	81	90	△9	△9%	
営業外収益	23	13	10	80%	
営業外費用	35	34	1	3%	
経常利益	69	68	1	1%	
特別利益	21	—	21	—	
特別損失	2	—	2	—	
税引前四半期純利益	88	68	20	29%	
法人税等	28	29	△0	△2%	
四半期純利益	60	40	20	51%	
親会社株主帰属分	60	39	21	52%	
非支配株主帰属分	0	0	△0	△96%	
E P S	29.22円	19.21円	10.01円	52%	
当期包括利益	13	73	△60	△81%	

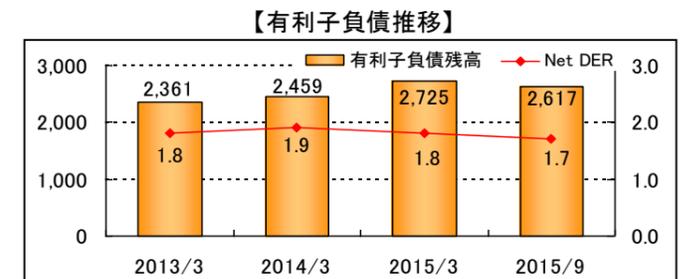
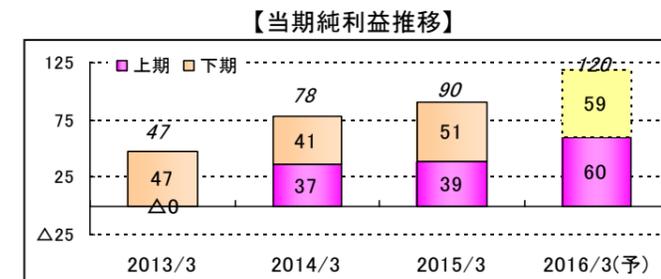
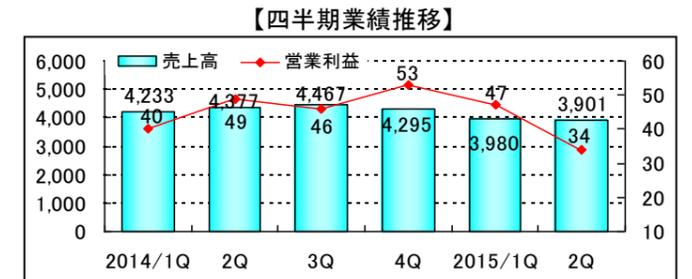
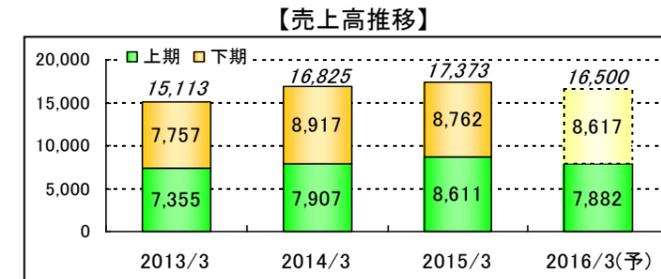
財政状態	当第2四半期末	前期末	前期比		主な要因
			増減	増減率	
総資産	6,327	6,514	△187	△3%	(総資産) 売上高の減少に伴う売上債権やたな卸資産の減少などにより、前期末比3%の減少となった。 たな卸資産 1,193億円(前期末比 △10%)
(流動資産)	4,845	5,103	△258	△5%	
(固定資産)	1,482	1,410	72	5%	
負債	4,901	5,087	△186	△4%	(負債) 仕入債務やコマーシャル・ペーパーの減少などにより、前期末比4%の減少。有利子負債も4%減少し、ネットDERは1.7倍となった。
(グロス有利子負債)	2,617	2,725	△108	△4%	
(ネット有利子負債)	2,366	2,480	△114	△5%	
Net DER	1.7倍	1.8倍	△0.1倍	△6%	
純資産	1,426	1,427	△1	△0%	(純資産) 四半期純利益による利益剰余金の積み上げはあったものの、その他有価証券評価差額金や繰越ヘッジ損益の減少などにより、前期末比微減となった。一方、自己資本比率は負債の減少幅が大きかったことから、前期末比+0.6ポイントの22.3%となった。
(株主資本)	1,312	1,263	49	4%	
(その他の包括利益累計額)	100	150	△50	△34%	
(非支配株主持分)	13	13	0	2%	
B P S	681.84円	682.46円	△0.62円	△0%	
自己資本	1,412	1,414	△2	△0%	
自己資本比率	22.3%	21.7%	0.6pt	—	

キャッシュ・フロー	当第2四半期 (累計)	前第2四半期 (累計)	前年同期比		主な要因
			増減	増減率	
営業活動によるCF	293	△246	539	—	(営業CF) 減収により運転資金の回収が進んだことから、+293億円。 (投資CF) 大阪本社の竣工や長期貸付の実行などにより、△123億円。 (財務CF) 短期借入金・コマーシャル・ペーパーの減少などにより、△177億円。
投資活動によるCF	△123	△20	△103	509%	
財務活動によるCF	△177	319	△496	—	
現金及び現金同等物	246	215	31	14%	

セグメントの状況	売上高			セグメント損益(経常損益)			主な要因
	当第2四半期	前第2四半期	増減率	当第2四半期	前第2四半期	増減率	
鉄鋼	4,063	4,236	△4%	63	68	△7%	(鉄鋼) 製造業向けは輸出不振、建設向けは人手不足等で荷動き停滞。鋼材市況も原料価格の下落により低迷、持分法投資損失も利益を下押しした。 (金属原料) ニッケル地金やニッケル化合物の販売が増加。ニッケルスクラップ販売の利幅は縮小も、為替差損の減少が増益に寄与した。 (非鉄金属) 新規連結した正起金属加工が売上増に寄与。銅・鉛スクラップの販売増や為替差損の減少も収益を押し上げた。 (食品) 国内需要は低調推移。新規連結したSEATTLE SHRIMP & SEAFOODは米国エビ相場下落により利益面では貢献しなかった。 (石油・化成品) 原油価格の下落に伴う製品価格の低下に加え、船用石油始め産業用石油製品需要の低迷も収益を押し下げた。
金属原料	739	654	13%	13	△0	—	
非鉄金属	452	415	9%	5	1	194%	
食品	477	439	9%	△1	5	—	
石油・化成品	1,500	2,311	△35%	10	12	△16%	
報告セグメント計	7,232	8,058	△10%	90	87	3%	
その他	1,292	1,159	11%	5	3	46%	
合計	8,525	9,217	△8%	95	91	5%	
調整額	△643	△606	△6%	△25	△22	△14%	
PL計上額	7,882	8,611	△9%	69	68	1%	

トピックス

- ・ 4月 鋼材卸売業の福岡鋼業を子会社化
- ・ 4月 鋼材卸売及び鉄骨・鉄筋加工業の大鋼産業を子会社化
- ・ 7月 鋼材卸売業のダイサンを連結子会社化
- ・ 9月 パンチングメタル製造業のメタルテックに出資



通期の見通し	通期業績予想	前期実績		配当の状況	前期実績	当期実績	当期予想
		対前期増減率					
売上高	16,500	17,373	△5%	中間期	7.50円	8.00円	—
営業利益	200	191	5%	期末	7.50円	—	8.00円
経常利益	180	142	26%	年間配当	15.00円	—	16.00円
親会社株主に帰属する当期純利益	120	90	32%	配当性向	34%	—	28%